

「震災伝承施設の登録伝達式及び案内標識お披露目式」に参加しました(2019/05/20)

テーマ：震災伝承，産官学民連携
 場所：岩手県宮古市

震災伝承ネットワーク協議会が行う震災伝承の取組を進めるにあたり，東北4県にまたがる広域性，震災伝承という持続性，伝承ロードの構築という新規性が求められることから，実施のための今後の取り組み体制等について，学識者や民間を含めた有識者から広く意見を求めるために平成30年度に，「震災伝承検討会」が設置されました。このうち，3.11 伝承ロードの構想を具体化するものとして，同ネットワークでは，震災伝承施設の登録制度とそれを案内する標識の設置を実施しています。

5月20日（月），道の駅 たろう（岩手県宮古市）にて，その第1号として宮古市田老地区にある施設の登録伝達式と，震災遺構「たろう観光ホテル」と，堤防の長さから「万里の長城」とも呼ばれた田老防潮堤の場所を示す標識の除幕式が行われました。震災伝承検討会の座長をつとめた，当研究所の今村文彦所長・教授（災害リスク研究部門）は，同式に来賓として参加しました。今村文彦所長は，来賓挨拶にて登録伝達のお祝いの言葉を述べるとともに，除幕の役目を担いました。

今後，震災伝承施設は登録を進めるとともに，案内標識も各地に徐々に設置されていく予定です。



今村文彦所長による来賓挨拶



登録伝達式の様子

（左：高田東北地方整備局長，右：山本宮古市長）



案内標識の除幕式の様子